

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 巧文



■ 児童・生徒の学力向上

この春、4年ぶりに全員が参加の全国学力テストが「国語 A, B. 算数・数学 A, B」の4つのテストで、小学校6年生と中学校3年生を対象に、全国規模で一斉に実施されました。先日、文部科学省から各学校へ結果が通知されたそうです。保護者のみなさんは大変関心の高いことと思います。

本市の結果について、教育委員会の報告によると、小学校では4つのテスト全てで全国平均を上回っており、中学校では2つが上回り、2つが下回ったという結果だったそうです。中学校で2つが全国平均を下回ったという結果には、いささか残念な感想を持ちましたが、それでも、この全国学力・学習状況調査が始まった平成19年（合併2年後）当時の本市は、小学校も中学校も4つのテストの全てで全国平均を大きく下回った状態だったそうです。それと比較すれば、本市の子どもたちの学力は、着実に向上してきているように思います。

過日、宇部市議会から、本市の小中学校を視察に来られました。子どもの学力向上に向けて、お互いに切磋琢磨し合いたいものです。

■ 合併特例債活用事業

合併特例債とは、合併前の新市建設計画に基づく事業について、あらかじめ事業費の5%を準備すれば、残りの95%は借入れができ、その元利償還金の70%は国が負担してくれる

というとても有利な財源です。

借入期間は、本市の場合、平成26年度末でしたが、東日本大震災後、被災3県は10年、それ以外の地域は5年延長されました。

本市の合併特例債の枠は、社会資本整備分が158億3,000万円（本市負担分）、基金造成分が16億5,300万円です。前者は、平成24年度までに厚狭駅南部区画整理、市内小中学校耐震化、厚陽小中学校校舎建設、山陽消防署建設等に、本市負担分、約30億5,000万円を借り入れており、平成25、26年度には新ごみ処理施設、新病院建設、厚狭地区複合施設等に、本市負担分、約52億4,000万円の借入れを予定しています。このように合併特例債は、主に不可欠な老朽施設の整備に充てています。一方、後者（基金造成分）は、すでに全額を借り入れて「まちづくり魅力基金」に積み立て、その運用益で学校図書支援システムの整備や、まち歩きガイドブック等を作成しています。

あと、埴生地区複合施設、学校給食施設、火葬場などが宿題として残っています。

■ 若者交流推進事業

いよいよ本市主催の若者交流推進事業が10月14日（祝）から始まります。毎月1回。少なくとも数年は続けたいものです。さわやかで明るく楽しい会にするため、人生経験豊かな5人で委員会を作りました。詳しくは、6ページ「トピックスさんようおのだ」をご覧ください。